

Program

J.S.バッハ：イタリア協奏曲 BWV971

Johann Sebastian Bach : Italienisches Konzert BWV971

S.ラフマニノフ：コレルリの主題による変奏曲 二短調 op.42

Sergei Rachmaninoff : Variations on a theme by Corelli d-moll op.42

F.リスト：「リゴレット」による演奏会用バラフレーズ

Franz Liszt : Paraphrase de concert sur Rigoletto

R.ワーグナー=F.リスト：イゾルデの愛の死

Richard Wagner-Franz Liszt : Isolde's Liebestród

C.M.v.ウェーバー：ピアノソナタ 第2番 変イ長調op.39

Carl Maria von Weber : Sonate für Klavier Nr.2 As-Dur op.39

2023.5.7日 14:00開演
[13:30開場]

14:00 (13:30 doors open) Sunday 7th May 2023

東京オペラシティ
リサイタルホール

Tokyo Opera City Recital Hall

全席自由 一般3500円 学生2500円

[チケット取扱先]

- チケットぴあ t.pia.jp [Pコード235-557]
- 東京オペラシティチケットセンター
operacity.jp/concert/ticket/ Tel.03-5353-9999

後援：オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム東京

株式会社グランドギャラリー

オーストリア文化フォーラム

公益社団法人日本演奏連盟

株式会社須賀楽器

日本ハプスブルグ協会



大室晃子

Yuko
Omura
Piano
Recital





リサイタルに寄せて

今回のリサイタルは、長年温めていた「イタリアとドイツ」をキーワードとするプログラムで開催いたします。

ドイツに住んでいたのは、かれこれ一昔以上前のことになってしまいましたが、その当時所属していたミュンヘンのユースオーケストラ(Bayerische Philharmonie)には、イタリアの南チロル地方からも同年代の音楽家がたくさん集まっていました。親しくなった彼らから、南チロルはドイツ語も公用語であることや、ハプスブルグ帝国の名残のある歴史などをたくさん教えてもらい、とても心を動かされたことが昨日のここのように思い出されます。

ミュンヘンから南下してイタリアへと抜けるブレンナー峠は、昔から多くの芸術家が通った交通の要所であり、モーツァルトもゲートもここを通過してイタリアを訪れたのだと、南チロルの村を訪れた時には感慨もひとしおでした。

そして、このブレンナー峠のように、イタリアとドイツを結ぶようなプログラムを組んで演奏したい、と思うようになりました。今回実現できることをとても嬉しく思います。

今年はラフマニノフの生誕150年でもあります。どうぞお聴きいただけましたら幸いです。

大室晃子 Akiko Omuro, piano

東京生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学卒業。在学中に、「モーニングコンサート」にて藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。同大学院修士課程を経て渡独。フライブルク音楽大学を最優秀で卒業後、ドイツ・バーデンビュルテンベルク州立銀行より奨学金を得て、シュトゥットガルト音楽・表象芸術大学大学院に進む。同大学院ソリスト課程を首席で修了し、国家演奏家資格を最優秀の成績で取得。オーケストラ・フェライン・シュトゥットガルトと共演し、好評を博す。シュトゥットガルト音楽・表象芸術大学にてピアノ科助手として教鞭をとり、管楽器科の伴奏助手も務めた。また、マルサラ国際ピアノコンクール、ウエスカ国際ピアノコンクールなど数々の国際コンクールでの受賞歴を持つ。

6年に及ぶドイツ在住中に、ヨーロッパで様々な音楽活動を展開。フライブルクの著名教会にて、教会音楽師としてオルガン演奏や定期的なミサを担当し、バイエルン・フィルハーモニーの一員としてカール・オルフ音楽祭や国内ツアーに同行。ドイツ国内外での様々な演奏会にも多数出演。ユーディ・メニューインの提唱に基づくヨーロッパのNPO団体「Live Music Now」に所属し、高齢者施設や子どもたちの教育現場へも足を運び、多くの演奏活動を行った。日本国内でもこの経験を生かして、「アウトリーチ・コンサート」を企画、全国各地の学校や施設にて演奏している。

帰国後はソロ・リサイタルを開催する傍ら、日本女子大学、上野学園大学にて後進の指導にあたった。2017年までは東京藝術大学の指揮科演奏研究員を務め、指揮レッスンでの伴奏をはじめ、マリス・ヤンソンス、チョン・ミョンフン、ダン・エッティンガー、小林研一郎ら多くの世界的指揮者のもと、稽古ピアニストや合唱の伴奏なども務めた。また、パーチャ・フローレス(Tp)、ラディスラフ・コズデルカ(Tp)、イェンス・ブリュッカー(Hr)、荘村清志(Gt)らの室内楽のパートナー、伴奏者としても多数の演奏会に出演し、日高剛(Hr)「ヴァリエーション・フォー・ホルン」、ザザ・ゴグア(Vla)「ヴィオラ・アルバム」等のCDもリリースされている。演奏収録やインタビューなどは、ヨーロッパ各国のメディア、NHK放送ほか全国のテレビ・ラジオ・新聞などでも度々取り上げられている。

これまでに岡崎悦子、植田克己、浜口奈々、V・ベルゾン、W・ブローザーの各氏に師事。現在、駿台音楽院主任講師。

大室晃子ホームページ：<https://www.akiko-omuro.com>